

apo

Product for clients

Career Power Life & Information Plaza

Powered By Career Power 株式会社 キャリアパワー

Vol. 78  
2017.12 Winter

# 「学びの場であり、交流の場である図書館。 次世代の教育に沿ったニーズと共存できる在り方を。」

工学院大学  
図書館長  
加藤 潔様



Top Interview

巻頭インタビュー

明治時代から最先端の技術研究の場として、10万人を越える科学技術と物作りのプロフェッショナルを輩出してきた工学院大学。新しい図書館と施設運営に関して、館長を務めておられる加藤 潔様に今回はお話をお伺いしました。今後見据えてゆく教育機関のビジョン、理工学を経て見えた新しい着眼点は、大学のミッションを受け継ぐ確かな熱意を感じました。

## 大学にとって業務委託はマストの存在である。今後も大学職員×業務委託のパートナーシップを強化していきたい。

現在、新宿キャンパスと八王子キャンパスの図書館は、キャリアパワー社での業務委託にて運営していただいておりますが、本学にとって業務委託はマストに近い位置付けです。どこの大学でも同様だと思いますが、本学も年々図書館に割けるマンパワーのリソースは縮小しており、大学職員だけの専門的な図書館運営は現実的に厳しいです。

業務委託によって学生などの利用者へ様々なサービス提供やリクエストに応じてもらっており、専門的な知識や経験により利用者満足は上がってきていると思います。多様化していくニーズに備え、今後ともキャリアパワー社に業務委託運営を通じ、未永くパートナーとしてご協力をいただければと思っています。

## 学生の立場へ一歩踏みこんで、学習へのワンストップサービスを目指し、さらに、施設と内容の充実を図りたい。

今後の展開としてまず希望することは、学生対応への一歩踏み込んだ対応でしょうか。学生指導とまではいかないのですが、司書業務から幅を広げ、柔軟に対応ができるような体制が今後求められてくると思います。

大学全体でも施設機能の集約が課題として上がっており、今回新設した2号館も「図書館」ではな

く、総合的な「学びの場」としてアクティブラーニングやラーニング commons のサービスを充実させる構想が進んでおりました。その構想が近年の校舎の建て替えを機に、本格的な改革へ踏み出した形になります。

将来的に一つの校舎で多くのニーズが補える一貫したサービスの提供、それが目標として掲げる施設の形でもあります。もともと情報学部だけは新宿校舎で4年間の教育を行うというコンセプトで始まったのですが、2年前に1、2年次は他の学部同様八王子校舎での教育を行うこととなりました。その理由から、2号館の上の階には情報学部の研究室が新設されております。

結果として、八王子校舎に全学部の1、2年次の学生が集結することになり、初年次の学生に対するサービスがより重要となってきました。新図書館の構想もそのサポートを重要なポイントとして検討され、現在の施設ができあがったのです。

学生をお客様として見る観点から、より良いサービスの提供を考えると、このような機能を目指した校舎運営に纏まって参りました。現在キャリアパワー社には、本学の受付カウンターでの業務委託もしていただいております。学生一人ひとりに寄り添う対応は、館長の私の耳にも報告として届いております。こちらの期待値を越えたお話もあり、非常に水準の高い方が揃っていると思います。今後の業務委託の方向として、ゆくゆくは学生全体をディスプレイできる機能を、図書館を筆頭に持たせい

たいと考えております。今はまだ運用に至っていない構想もありますが、図書館を含めた2階から4階までの全フロアを学生支援や学びの場として提供していきます。より良いサービスの提供と本学の発展のため、引き続き共に歩んでいけたらと考えております。

## 校舎の建替え・新設工事。これが学内施設の改革への一歩でした。

そもそも大規模な校舎の建て替え工事の背景は、長年学び舎として機能してきた各校舎の老朽化によるものでした。現在八王子市は学園都市を標榜し20を越える大学・高専などが設置されておりますが、実はその先鞭をきって1963年最初に八王子市に進出したのが工学院大学だったのです。それだけ古いわけで、近年耐震基準の問題と校舎の老朽化があり、建物の建替え工事が必要となってきました。1979年12月竣工の旧図書館は、北欧の建築家アルヴァ・アールトに学んだ建築家で本学の教授であった武藤章氏の代表的作品でしたが、現在の耐震基準には合わない建築物となっており、保存に関する議論もあったのですが、様々な期日の関係上、残念ながら取り壊しとなり、新2号館の設立が進んで行き、現在の形に落ち着きました。

そのほかにも八王子校舎は整備が過去数年にわたって進められ、開設当時の建物はかなりのものが建替えられ、あるいは取り壊されました。新1号館は総合教育棟として、学生とのフロントである教務

学生対応の事務室や大学運営に必須の法人事務室、そして多数の教室と、随所に設置された学生のためのラウンジ群がございます。2号館の1年前にオープンした4号館は新しい研究室を収容する建物ですが、八王子キャンパスの難所であった急斜面のある崖側に沿って建てているので、建物内のエレベーターを通り抜けていくと、階段を上り下りせず高いところにある建物群へ移動できるという機能をもっています。

図書館については1年半にわたり仮設状態で運用していた時期もあり、変動が多い時期も支えていただいた図書館・キャリアパワー社の方々には非常に感謝しております。3月に図書館の移転が完了した時には安堵し正直ホッとしました。

まだ新校舎になってから日も浅く、まだ改善の余地は残していると考えます。大掛かりな校舎機能の整理をこのタイミングで行えたのは、むしろ幸運だったのかも知れません。これからの時代、大学もサービスを見られることが増えてくるでしょう。私達もそれに備え、学生のためによりよいサービスの運営を心がけていきたいですね。

また、新宿校舎については、八王子のように増築はそもそも不可能なものですから、より賢明な運用を考えつつ、2つの校舎のそれぞれ特徴を持った機能が連携して機動的に機能するようにしていきたいと願っております。

## 130年もの工学院大学の歴史は、工手学校として始まりました。

今年10月末をもちまして本学は創立130周年を迎えました。長い歴史を紐解くと、明治20年の工業化が急速に進みだした時代、本学は帝国大学(現東京大学)の工学部の先生が作られた学校である「工手学校」として授業を開始し、頂点に立つ上級技術者と現場の職人をつなぐ技術者集団の中核である「工手」を育てるべく8学科をもって始まりました。

今でも、工学院大学は建学の精神として「社会・産業と最先端の学問を幅広くつなぐ「工」の精神」を掲げております。このため長い間、工学部1学部だけの単科大学でしたが、現在では基本的に「工」ではある工学部、先進工学部、情報学部、建築学部の4学部体制となっております。

この建築学部ですが、不思議なことに「建築学科」というものは、全国各地にあるのですが、「建築学部」は本学が2011年に設立するまではありませんでした。丁度近畿大学と同時期で、残念ながら日本で唯一の建築学部とはいかなかったのですが、それでも数々の人材を輩出してきた学部の歴史は本学の誇りでもあります。

情報学部や先進工学部などは、科学技術と社会の需要に応じて工学部から分かれて設立してきた背景があります。4学部、15学科で運営している現在、就職率や就職満足度も高い数値を保っております。一級建築士の合格者数は全国でもトップクラスと、誇れる結果となっております。企業からの要望や就職を目指す学生の希望などのニーズを追いかけ、社会や産業の最先端の学問を繋ぐ「工」の精神が本学のベースでもあります。

## 創立150周年の節目を目指し、時代に即した大学として運営をしていきたい。

工学院大学は技術の発展が求められる時代に、建学の精神と共に社会が求めるニーズに合わせて、科学技術での社会貢献を担う人材育成と学びの場を提供してまいりました。そのお陰もあり、本学は歴史と新世代の技術が共存する新しい環境が出来上がっております。現在は新しい学部もでき、新たな取り組みに進みたいと考えております。

大学の理念としては「無限の可能性が開花する学園」を掲げております。これの実現を我々は念頭においております。少子化が騒がれる昨今、大学も淘汰される時代になりました。その中でこのような長い期間、教育と研究に貢献できたことは非常に誇らしいことだと思います。ですが統合や移行、廃校などになる大学も増える中、対岸の火事ではないと考えております。今後本学がどのようにして運営をしていくか。その一つに、先ほど話題に挙げた学内施設のサービス向上にあります。我々の教育事業も、学生に選ばれて成り立っているものであるため、お客様・消費者として学生の声を更に拾って行ける環境も今後重要な点になるのではと考えております。意欲的な学生の影響もあり、我々の気付きの場も日に日に広がってきております。業務委託を含め、学生と触れる現場の声をより多く拾えるよう体制を整えて行きたいですね。

そして学園創立150周年は大きな節目と本学でも考えており、これからも学びと研究の場としてのステータスを維持していきたい。そして発展をしていきたい。本学における誰もがそれを願っていると思っております。20年も先だとおっしゃるかも知れませんが、思いのほかすぐに過ぎてしまうかも知れません。今後も最先端の技術研究を担う場として積み上げた歴史に恥じぬよう、学びの場を提供する者として先導するポジションで在りたいですね。

## 教育はその瞬間、瞬間を丁寧にやるしかない。熱意と真摯な対応で、学生に個別に向き合い時代に合った手法を探っていく。

私個人の教育指導の方針としては、兎も角丁寧に個々の学生を尊重しながら向き合うことだと考えております。ただひたすらに真っ直ぐに取り組んできたため、話題になるような奇想天外な内容でなく恐縮ではありますが、これを徹底することが私の示してきた教育の方針です。

教育の現場では興味や関心を煽るなど、具体的かつ様々なテクニックがありますが、最終的に必要なのは学生に対する教育の熱意が必要なのだと考えております。教育は「生もの」と例えられますが、本当にその通りだと日々肌で感じております。何事にも鮮度といえるトレンドがあり、時代の流れと共に常に変わり移ろいで行く。それは学生の在り方や教育にも言えることです。それを逃さず取り入れることの難しさ、面白さを教育者として日々感じております。

中には反抗的な姿勢を示す学生もいますが、そんな学生にこそ相手を尊重し向き合う姿勢が必要なのではないでしょうか。相手に合わせた上で真摯に向き合い、時には厳しい意見を教育者として

出す。ただ親切に甘やかすように付き合うのではなく、一人の理解者として、指導者として教育に取り組んでまいりました。議論の末、相互理解が深まったときには、学生との絆を感じましたし、今でも交流のある卒業生も中にはいます。世代の差に戸惑うこともあります。教育の先に壁を乗り越えた信頼が生まれることも身をもって体験してきました。

自身の教育を丁寧というには、少々傲慢な自己評価かもしれません。ですが、それを自負できるよう熱意を持った取り組みをしてきた次第であります。これからも学生と向き合い、一人の理解者としてありたいですね。

## 別の視点を持ってみると、ありふれた言葉も違って見えてくる。

「金持ちになるほど人間は馬鹿になる。」「賢くなるほど人間は貧乏になる。」これは私のWebページをご覧になったのですね。これは、知り合いのロシア人の物理学者と酒を飲みながら教えてもらった話を紹介したものです。「時は金なり」、「知識は力なり」この二つの格言に、物理学の基本原則「力積は力と時間の積である」を適用すると知恵の量と財産の量は逆比例の関係にあることが出てくるのです。これは元々言葉の定義をいじっていると、結果そうなりますよね、というお話なのです。私のオリジナルではないですし、一つの面白い話として読んでいただければと思います。ですが、意味が分かればニヤリと笑ってしまう内容でもあるので、工学部出身の方などでは、話題の種になってくれるかもしれません。

このような話をフェイスブックなどでも発信していますが、これらは物理学に親しみを持っていたいただきたいという思いがあります。言葉と数式を怪しく組み合わせるというのが私は好きなのです。ありふれた言葉にも、違った考え方をもってくることで、別の答えが見出せる可能性があります。

本学には、理工学系の紀要と文科系の紀要があります。この前、文科系の紀要に、横溝正史の長編推理小説「獄門島」に出てくる数字についての論文を発表してみました。文学的表現を大切にしつつ、理系的に間違っている部分を指摘するとどうなるか、物理の考え方をを使って、小説を追ってみた論文になります。いつもと違う視点をもつことの面白さを普段から説いておりまして、結果様々なお意見もいただき、興味深い論文になったかと思っております。名作の重箱の隅をつつくようではありませんが、このような話が好きな方には是非楽しめる内容となっております。新しい観点が開けるかも知れませんので、よろしければご覧になってください。

## 仕事も趣味も没頭できるものとの出逢いが大事。惜しみなく時間を投資できるありがたさを感じています。

私の経歴をというお尋ねでしたので、簡単にお話できればと思います。私は東京大学で理学博士を取得後、素粒子や原子核などを研究分野としており、工学院大学に助手として就職後、教授に至るまで長年教鞭を振るう立場として在籍しております。

ます。一貫してこのような教育と研究の場に身を置けたのも、数々のご縁と出逢いがあるからこそだと思います。数々の講義や学協会で議論が交わされる環境は、研究者として真利に尽きる恵まれた状態だと感じております。現在は図書館の館長、学習支援センターの所長、それから科長を兼務しておりますが、教育者としても日々変化があり非常に興味深い仕事だと思います。

趣味については入職してから大学に居る時間も非常に増え、時間が中々ないので、聞かれるとな

んと答えていいのか困ってしまいます。時間があれば、読書、パズル、将棋など頭を使ったことを良くしています。元々考えるのが仕事なのに、休日は休んでいた方が良いのではないかとよく言われることもあります。元々私自身が考えることが好きなのでと思います。思考を巡らせて、答えが導き出せるときの達成感、やはり何物にも変えがたい充実感が得られますね。そのほかでは、映画鑑賞や美術館巡りなども、新しい発見やインスピレーションに出会えるため、頭をめぐらせる良い栄養になっています。

未知との遭遇は、日々の生活に刺激を与えてくれるため、これからも探究心を忘れずに取り組みで行きたいですね。そして仕事も遊びも、取り組むときは惜しみなく時間と労力を投資し取り組むべきだと私は考えております。自分のやりたいことを後悔なく全力で取り組める環境は、非常に貴重なものです。研究室や講義では活気ある声も多く、勢いを非常に感じます。若手の研究者や学生達に負けぬよう、私も積極的な姿勢を取り入れて今後も臨んで行きたいです。

## ■ Interview

スタッフインタビュー



大阪市中央区  
大手メーカー勤務  
小林 早貴様

### 「チームとして仕事の楽しみや苦しみを共有して全員で喜ぶたい」

#### ■積極的に動く事で良い“出会い”に巡り合えた

まずキャリアパワーに登録したきっかけは、理想の仕事を探したかったからです。私はそれまで派遣でのお仕事をしていた事が無く、人材派遣会社に登録するメリットや活用自体を良く知らなかったのですが、転職するにあたり周りの先輩や友人から人材派遣会社のメリットを良く聞くようになりました。そこからインターネットで色々なサイトを見て、お仕事を探している中で私にぴったりのお仕事をキャリアパワーから募集をされており、今御世話になりました。

時給や交通費支給なども判断材料にはなりましたが、何よりお仕事の内容や職場環境が魅力的でした。お仕事もただ単にデータ入力をするだけではなく、付随して調整や折衝業務、庶務業務などもあり、また職場のサポート体制も非常に魅力的に感じました。

実際にお仕事をさせていただき、難しく感じる場所もありますが、周りからのサポートもあり、充実した日々を過ごしております。

#### ■「正確且つ丁寧」にする事がモットーであり、日々スキルアップしていく事で業務効率をあげていく

次に実際のお仕事ですが日々、社員さんから物品購入の為に見積依頼があがってきます。こちらのメーカーさんでは物品を購入する際に数社より見積を取り、その中で価格など含めて総合的に判断をして一番適正な仕入れ先業社さんを選定します。見積依頼の確認から仕入れ先業社さんを選定するまでの業務を一貫してキャリアパワーが業務委託で運営しており、その業務を数十名で担当しております。大手メーカーさんですので全国の社員さんから日々数百件の見積依頼があり、また海外の事業所からも依頼があるのですが、私は主に海外事業所からの仕事を担当しております。

見積依頼の内容は私が今まで聞いた事が無い物品も多く、種類も多岐に渡ります。また社員さんからのご要望も沢山のいたたく事もありますが、そういう難しい依頼をやり遂げた時は充実感もあり、やり甲斐に繋がっています。日々「ご要望にお応えできるかな...」や「ご依頼の物品を揃えられるかな...」など悩みつつ業務をしておりますが、とにかく社員さんや会社に貢献する事を第一に考えて取り組んでいます。また先ほどもお話ししましたが、主に海外の事業所を担当しておりますので、英語や英文でのやり取りも発生します。日本語が堪能な方もいらっしゃるのですが、英語しか出来ない方もいらっしゃると思いますので、対応する私も日々スキルアップしていく事が必要です。まだまだ勉強中ですが、英語や英文でスムーズに対応が出来た時もやり甲斐を感じますね。

お仕事ではとにかく「正確且つ丁寧」にする事を心がけています。ご依頼の内容によってはすぐに進めないといけない事も多々あるのですが、そういう状況でもミスが無い様に正確に処理をしていく事を心がけています。数字もたくさん見る事が多く、日々何十件も処理をしますがケアレスミスが無い様に自身で何度もチェックする事も徹底しています。

#### ■心身のバランスが大切！バランスを保つ事で仕事もプライベートも充実しています！

職場の事もお話ししたいと思います。職場の皆さんは明るく、また風通しもすごく良いです！個人個人でもくもくとお仕事をされており、常に集中して取り組まれています。わからない事があればすぐに先輩に聞ける環境です。先輩もやさしく聞きやすく、また丁寧に教えていただけますのでお仕事もやりやすいですね。先輩との距離も近く、自身のスキルアップに最適な環境だと思います。

休日はまず家事を済ませてから友人とコーヒーショップへ良く行きますね！アクティブに動くことよりも、休日はリラックスするようにしています。友人とお菓子を食べながらおしゃべりに花を咲かしています！こういう時間をもち、ゆっくりする事で仕事の原動力にもなっています。また中国茶も習っており、家にも専用の茶器も茶葉も揃えています！友人を家に招いた時は中国茶を振舞っています。心身のバランスを取ってメリハリをつけて働いています。

## ■ Information

### ● ご存知ですか？ キャリアパワーのあかいドロップ



「This We Believe...」わたしたちキャリアパワーの信じるどころ。その思いから生まれた小さな冊子が「キャリアパワーのあかいドロップ」です。出会うことができたすべてのスタッフの皆様の中に、私たちの想いをお伝えしたい。そして、一人でも多くの方の心に、その思いを留めてほしい。ずっと変わらぬ思いでお届けしています。ぜひご愛読ください。

ご希望の方に配布中です くわしくはスタッフ企画室まで！

TEL 0120-288-450 E-mail info@careerpower.co.jp

## ■ Information

### キャリアパワーはクリーン活動を始めます!

CSR活動の一環として、国土交通省が実施している「ボランティア・サポート・プログラム」へ参画し、近日よりクリーン活動を始めます。現在は準備中ですが12月もしくは1月からの実施を予定しております。

「ボランティア・サポート・プログラム」とは道路の美化清掃に企業や地域の方が参加をして、快適な道づくりを進める活動になります。弊社は初回として大阪・京都での清掃活動を実施していきますが、今後もエリアを拡大していきたいと考えております。

またクリーン活動以外でも社会に貢献出来る事を常に考えていき、CSR活動については今後も活発的に活動をしていき、企業としての責任を全うしていきたいと考えております。



※写真は弊社グループ会社での活動風景です

## ■ Information

### ご就業スタッフさんと懇親会を実施しました

弊社では日々、お仕事を頑張っていただいているスタッフさんへ日頃の労いと感謝の気持ちを込めて、懇親会も実施しております。今回は弊社が業務委託運営をしている大手電機メーカーでご就業中の皆様との懇親会をレポートさせていただきます。

日頃はおもくもとお仕事に集中をされ、真剣な眼差しでパソコンの画面とにらめっこしながら奮闘されている皆さんですが、そんな日頃とは違い、和気あいあいと雑談も盛り上がり、お仕事についても「もっともっと生産性が上がるように、頑張っていこう!」と力強い言葉もあり再度、皆さんの団結力やパワーを感じた時間でした。

こちらの職場は業務委託で弊社が管理・運営をしている職場ではありますが、やはりスタッフ皆さんのパワーや想いが非常に重要であると感じました。この懇親会を経て、今後益々期待が持て、改めて頼もしくも感じました。

弊社としては今後も出来る限り、現場で奮闘いただいているスタッフの皆様との時間を大切にしていきたいと思っております。



スタッフ懇親会

## ■ Information

### 第15回京都学生祭典を今年も応援しました

10月8日(日)、京都平安神宮一帯で第15回京都学生祭典が開催されました。キャリアパワーはこの祭典を第1回目から応援。今年も京都最大級のお祭りをバックアップしました。

当日は「京炎そでふれ! 全国おどりコンテスト」や「Kyoto Student Music Award」、「縁日企画」、「京都学生コレクション」など多くの企画が開催。グランドフィナーレでは学生祭典とゆかりの深い歌手の倉木麻衣さんのスペシャルステージも行われ、大きな盛り上がりを見せていました。また、キャリアパワー企業ブースでは、グループを紹介したパネル展示を実施。多くのお客様にご来場いただきました。



第15回京都学生祭典

## ● 法令遵守委員会

キャリアパワーは、労働者派遣法や労働基準法など各種労働法令を遵守し、常に適正な事業運営を果すために、社内に法令遵守委員会を設置しています。定期的に派遣先を巡回、また社内監査を行ないながら、派遣契約内容を改めて見直し、法令の遵守が出来ているかの再チェックを行なっています。また、全社員に対して法令知識向上とコンプライアンス遵守の意識強化のために、定期的に研修会や勉強会を実施し、コンプライアンスの課題解決や事前防止の徹底を図っています。遵法精神を貫くことで、当社で働く派遣労働者、そして人材派遣を利用される全ての派遣先企業様に、よりいっそう満足して頂ける様、活動を行なってまいります。

派遣コンプライアンスに関する問い合わせ先

株式会社キャリアパワー 法令遵守委員会

TEL 075-341-2929 E-mail support@careerpower.co.jp

キャリアパワー各支社へは、フリーコール 0120-154-450 にお気軽にお問合わせください

東京：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル 15F  
 大阪：〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング 2F  
 名古屋：〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅3-25-9 堀内ビル8F  
 京都：〒600-8216 京都府京都市下京区堀小路通烏丸西入東堀小路町843-2 日本生命京都ヤサカビル 4F  
 滋賀：〒525-0025 滋賀県草津市西渋川1-1-3 リバティハウス4F  
 システムセンター：〒600-8269 京都府京都市下京区七条通堀川西入西八百屋町160

TEL.03-6895-2929(代) FAX.03-6895-2911  
 TEL.06-6346-2929(代) FAX.06-6345-1268  
 TEL.052-563-2929(代) FAX.052-563-3511  
 TEL.075-341-2929(代) FAX.075-341-3828  
 TEL.077-501-9292(代) FAX.077-501-9200  
 TEL.075-344-6776(代) FAX.075-344-6780

発行  
 株式会社 **キャリアパワー**  
 企画/制作  
 株式会社 **キャリアクリエイト**  
 2017.12.15発行

## ■ Information

第19回図書館総合展

# 第19回図書館総合展に出展しました

## 開催期間:2017年11月7日(火)~11月9日(木)

今年も図書館総合展に出展し、キャリアパワー主催のフォーラムを2日間にわたって開催させていただきました。おかげさまで多くの図書館関係者の皆さまにご参加いただき、大盛況のうちに無事終了することができました。

1日目

### ■貴重な資料を眠らせない! 図書館における保存と利用促進 ~和古書を開架へ/デジタルアーカイブで世界につなぐ~

1日目は、立正大学図書館/古書資料館の田中麻巳様、龍谷大学大宮図書館の青戸英夫様を講師としてお招きし、貴重な資料を図書館としてどのように保存し、利用を促すか、というテーマでフォーラムを開催いたしました。

2014年に開館された立正大学の古書資料館は、江戸時代を中心とした貴重な和古書を約4万5千冊所蔵する専門図書館です。その大半を開架として利用者が自由に書架から手に取ることができることが最大の特徴、魅力です。貴重な和古書を開架とされた経緯や取組み、さまざまな工夫について、田中様よりお話しいただきました。一方、西本願寺に設けられた「学寮」をはじめとする龍谷大学は、370年というその歴史から、非常に古く貴重な資料を多数有しています。龍谷大学の歴史、そして図書館の歴史、約4000冊、15万件以上の画像をデジタルアーカイブとしてWEB公開するに至った経緯や現状について、青戸様よりお話しいただきました。



2日目

### ■あらたな学修空間としての図書館 ~拡張書架としての外部倉庫の活用~

2日目は、工学院大学図書館長の加藤潔様を講師にお招きし、2017年春に新しく開館した工学院大学八王子キャンパスの新図書館について、拡張書架として外部倉庫を活用することにより実現した、あらたな学修空間としての図書館についてご紹介いただきました。また外部倉庫として工学院大学の拡張書架の役目を担っていらっしゃる、寺田倉庫株式会社の矢野裕司様にも御登壇いただき、より具体的なスキームについても説明いただきました。

新図書館オープンにあたって、拡張書架として外部倉庫の活用に至った経緯やポイント、導入後の学生の反応など、加藤様より分かりやすくお話しいただきました。八王子キャンパスの新図書館では、館内に置かれている資料は3万冊に満たさず、その分、学生の主体的な学びを促す学修スペースを広く取った空間デザインとなっています。図書館の利用者数は大幅に増え、この学修空間を優先した新図書館は非常に存在感のあるものになっているということが、加藤様のお話をうかがってとてもよく分かりました。



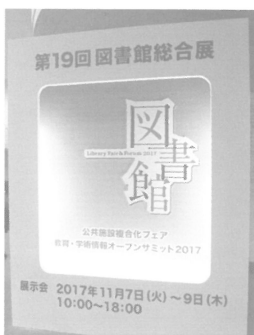
### ■追手門学院大学 オーストラリアライブラリーニュース (ポスターセッション)

昨年に引き続き、イベント企画のひとつである「ポスターセッション」にも参加し、追手門学院大学附属図書館内にある「オーストラリア・ライブラリー」について紹介させていただきました。

日本国内で唯一のオーストラリア専門の図書室。オーストラリアの歴史、経済、産業、文化、芸術などの各分野にまたがる蔵書構成で、先住民アボリジニに関する資料も多数所蔵しています。このオーストラリア・ライブラリーの魅力を、ポスターでわかりやすくお伝えしました!



ご来場いただきました皆様、ポスター制作にご協力いただきました大学様、フォーラム講師をお引き受けいただきました講師の御三方に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。



## ■Support Center News

## 学術サポートセンター通信 Vol.IV

弊社キャリアパワーでは図書館で働くスタッフさんへの教育やサポート、そしてアウトソーシングの運営サポートに特化した、「学術サポートセンター」がごさいます。この学術サポートセンターは図書館業務とアウトソーシング運営に精通した「プロ」集団です。今回、学術サポートセンターからは「レファレンス協同データベース」についてワンポイント学習をさせていただきます。

## ■ワンポイント学習

## 「レファレンス協同データベース」について

レファレンス協同データベースは、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べ物のためのデータベースです。略してレファ協ということもあります。全国の多くの大学・公共・学校・専門等の図書館や文書館などの機関も参加しています。

レファレンスの調査プロセスや、調査の過程で使ったツールなどを、インターネット上で無償で閲覧することができます。

従来であればレファレンススタッフが個人で持っていた知識を、共有し、蓄積し、活用することで、図書館の有用性をアピールすることもできます。非常に画期的なツールであり、今ではなくてはならないサービスとなっています。

2005年4月からスタートして10年以上が経過しましたが、その有用性から2017年9月に「Library of the Year 2017 ライブラリアンシップ賞」を受賞しています。図書館だけのものではあったレファレンス・サービスを可視化・公共財化した点を高く評価され、受賞に至ったようです。

※「Library of the Year」(LoY)は、これからの図書館のあり方を示唆するような先進的な活動を行っている機関に対して、NPO法人 知的資源イニシアティブ(IRI)が毎年授与する賞です。そのなかでもライブラリアンシップ賞は長年にわたる継続的な図書館サービスに贈呈される賞です。

URL:<http://www.iri-net.org/loy/loy2017.html>

登録データはNDC分類も振られており、自身の関心や就業先図書館の特色から、分野を選んで専門知識を深めることもできます。利用者からの相談が発生する前に、各分野の基本的な調査方法を学ぶよいツールとなっています。

※ホームページのご紹介 <http://crd.ndl.go.jp/reference/> 国立国会図書館ウェブサイトより

公共図書館や学校図書館ではこどもからのレファレンス事例も登録されており、詳細検索で「未就学児」「小中学生」「高校生」などの質問者区分を限定して検索する機能もあり、微笑ましい事例も登録されています。

レファレンスは必ずしも答えが用意されるわけではありません。調査の結果、相談者の求めるような情報はなかった、もしくは見つけれなかったということも珍しくありません。そのようなレファレンス事例は「未解決」フラグが入って登録されています。未解決事例にアクセスした他館レファレンサーから、有益な情報を得られることもあるようです。

これぞレファレンス！といった様々な参考書やウェブサービスを駆使したレファレンス事例から、ちょっとしたクイックレファレンスまで、館種や質問者の属性を超えたありとあらゆるレファレンスが集まっています。